令和９年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

令和８年11月９日

上 場 会 社 名	株式会社　御園座	上場取引所	名
コ ー ド 番 号	9664	URL	https://www.misonoza.co.jp
代　　表　　者	（役職名）代表取締役社長	（氏名）	宮崎敏明
問合せ先責任者	（役職名）総務経理主務	（氏名）	長谷川眞玄　（TEL）(052)222-8202
半期報告書提出予定日	令和８年11月９日	配当支払開始予定日	―

決算補足説明資料作成の有無　　：無
決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．令和９年３月期第２四半期（中間期）の業績（令和８年４月１日～令和８年９月30日）

（１）経営成績(累計)

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
９年３月期中間期	1,541	△2.9	41	△50.4	39	△50.3	30	△54.5
８年３月期中間期	1,586	9.0	83	―	80	―	67	―

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
９年３月期中間期	6.19	―
８年３月期中間期	13.59	―

（２）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
９年３月期中間期	5,804	4,752	81.9
８年３月期	5,952	4,707	79.1

（参考）自己資本　　９年３月期中間期　4,752百万円　　８年３月期　4,707百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
８年３月期	―	―	―	0.00	0.00
９年３月期	―	―			
９年３月期(予想)			―	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

３．令和９年３月期の業績予想（令和８年４月１日～令和９年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,800	△13.0	80	△66.4	70	△69.7	65	△67.8	13.05

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※　注記事項

（１）中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　：　無

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：　無

②　①以外の会計方針の変更　：　無

③　会計上の見積りの変更　：　無

④　修正再表示　：　無

（３）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	９年３月期中間期	4,984,500株	８年３月期	4,984,500株
②　期末自己株式数	９年３月期中間期	5,294株	８年３月期	5,294株
③　期中平均株式数（中間期）	９年３月期中間期	4,979,206株	８年３月期中間期	4,979,206株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料４ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 3
（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 4
２．中間財務諸表及び主な注記 …… 5
（１）中間貸借対照表 …… 5
（２）中間損益計算書 …… 7
（３）中間キャッシュ・フロー計算書 …… 8
（４）中間財務諸表に関する注記事項 …… 9
（継続企業の前提に関する注記） …… 9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 9
（セグメント情報等の注記） …… 9

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当中間会計期間におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果により個人消費の持ち直しの動きがみられる等、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方で、資源価格の高騰や為替変動による物価の上昇の継続、自然災害をはじめとする地政学的リスクの影響を注視する必要があり、依然として先行き不透明な状況が続きました。

このような状況下、当社におきましてはお客様と公演関係者の安心・安全を最優先に考え、安心してご来場いただけるよう努め、その中で引き続きお客様の嗜好に合わせた公演の実現、より一層の効率化を図るとともに、積極的な営業活動を行い、観客動員の維持も図りながら上演しております。

今後につきましても、公演数及び観客動員の拡大を図りながら、お客様に喜んで頂ける公演を増加させていく予定であります。

当社は、以下の通り、令和８年４月から９月までに公演を22種類、上演日数として108日間、上演回数として139回（前年同期129回）の実施を致しました。公演中止もなく、予定していた公演すべて順調に上演することができました。

〈当中間会計期間の上演実施作品〉

公演名	上演期間	上演日数	上演回数
『流白浪燦星』 碧翠の麗城	４月３日～26日	24日	29回
ミュージカル『レイディ・ベス』	５月３日～10日	8日	10回
御園座創立130周年記念 天童よしみコンサート	５月12日	1日	1回
御園座創立130周年記念 里見浩太朗コンサート	５月14日	1日	1回
御園座創立130周年記念 社会風刺コント集団 ザ☆ニュースペーパー特別公演	５月17日	1日	1回
御園座創立130周年記念 五木ひろしスペシャルコンサート	５月23日～24日	2日	2回
宝塚歌劇 星組公演 TAKARAZUKA MUSICAL ROMANCE『花より男子Ⅱ』 －Shooting STAR-	６月９日～30日	22日	28回
ミュージカル『レッドブック～私は私を語るひと～』	７月４日～５日	2日	3回
ミュージカル『神経衰弱ぎりぎりの女たち』	７月10日～12日	3日	4回
山内惠介コンサートツアー2026　in 御園座 ～明鏡止水、この世は祭り～	７月18日～19日	2日	3回
ミュージカル『レベッカ』	７月24日～26日	3日	4回
ミュージカル『エタニティ』	７月31日～８月１日	2日	3回
吉本新喜劇&バラエティーショー	８月２日	1日	2回
夏休み恒例！吉本新喜劇&バラエティーショー	８月４日～９日	6日	11回
『HiGH&LOW THE 戦国 外伝』	８月14日～16日	3日	4回
ブロードウェイ　ミュージカル『ピーター・パン』	８月22日～23日	2日	3回
ミュージカル『ディア・エヴァン・ハンセン』	８月29日～９月６日	9日	12回
御園座創立130周年記念 舟木一夫御園座特別コンサート2026	９月９日～13日	5日	5回
御園座創立130周年記念 石川さゆり御園座特別コンサート2026	９月16日～20日	5日	5回
山里亮太の140　愛知公演～逃げ上手の不如帰～	９月21日	1日	1回
映画『国宝』特別上映 in 御園座	９月22日～23日	2日	4回
坂東玉三郎 衣裳の魅力と美の世界	９月25日～27日	3日	3回
合計		108日	139回

（上演日数には休演日も含みます）

〈公演中止となった当中間会計期間の上演予定作品〉

公演名	上演期間	上演日数	上演回数
該当なし		―	―
合計		―	―

この結果、当中間会計期間の売上高は、15億４千１百万円（前年同期は15億８千６百万円）となりました。

利益面では、営業利益４千１百万円（前年同期は営業利益８千３百万円）、経常利益３千９百万円（前年同期は経常利益８千万円）、中間純利益３千万円（前年同期は中間純利益６千７百万円）となりました。

なお、当中間会計期間に予定していた公演をすべて順調に上演できましたので、公演中止に伴う特別損失はございません。

当社の報告セグメントは劇場事業単一セグメントでありますので、セグメント別の記載は省略しております。

当中間会計期間における財政状態の状況は、以下の通りであります。

（２）当中間期の財政状態の概況

① 資産・負債及び純資産の状況

(資産の部)

当中間会計期間末における流動資産の残高は、13億８千万円となり、前事業年度末に比べ５千万円の減少となりました。この主な要因は、現金及び預金が１億４千９百万円減少、売掛金が８千３百万円増加したことによるものであります。固定資産の残高は、44億２千４百万円となり、前事業年度末に比べ９千６百万円の減少となりました。この主な要因は、建物及び構築物が６千１百万円、機械及び装置が４千５百万円減少したことによるものであります。この結果、総資産は、58億４百万円となり、前事業年度末に比べ１億４千７百万円の減少となりました。

(負債の部)

当中間会計期間末における流動負債の残高は、６億３千６百万円となり、前事業年度末に比べ９千６百万円の減少となりました。この主な要因は、買掛金が５千９百万円、未払法人税等が３千７百万円、未払消費税が４千１百万円減少、前受金が３千５百万円増加したことによるものであります。固定負債の残高は、４億１千４百万円となり、前事業年度末に比べ９千６百万円の減少となりました。この主な要因は、長期借入金が１億４百万円減少したことによるものであります。この結果、負債合計は、10億５千１百万円となり、前事業年度末に比べ１億９千２百万円の減少となりました。

(純資産の部)

当中間会計期間末における純資産の残高は、47億５千２百万円となり、前事業年度末に比べ４千５百万円の増加となりました。この主な要因は、利益剰余金が３千万円増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間における現金及び現金同等物は、前事業年度末に比べて１億７千９百万円減少し、11億３千５百万円となりました。

〔営業活動によるキャッシュ・フロー〕

営業活動によるキャッシュ・フローは、４千万円の支出（前年同期は４億３千４百万円の収入）となりました。これは、主に税引前中間純利益３千９百万円、売上債権の増加８千３百万円、減価償却費１億１千９百万円、仕入債務の減少５千９百万円、未払又は未収消費税等の増減４千１百万円、前受金の増加３千５百万円、法人税等の支払額３千９百万によるものです。

〔投資活動によるキャッシュ・フロー〕

投資活動によるキャッシュ・フローは、３千２百万円の支出(前年同期は０百万円の支出)となりました。これは定期預金の預入れによる支出３千万円によるものです。

〔財務活動によるキャッシュ・フロー〕

財務活動によるキャッシュ・フローは、１億６百万円の支出(前年同期は１億６百万円の支出)となりました。これは主に、長期借入れによる収入３億５千万円、長期借入金の返済による支出４億５千４百万円によるものであります。

（３）業績予想などの将来予測情報に関する説明

該当事項はありません。

２．中間財務諸表及び主な注記

（１）中間貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 （令和８年３月31日）	当中間会計期間 （令和８年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,344,612	1,195,138
売掛金	69,213	152,620
貯蔵品	1,006	1,069
その他	18,543	31,430
貸倒引当金	△2,149	―
流動資産合計	1,431,227	1,380,258
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,981,497	1,920,416
機械及び装置（純額）	266,052	220,558
土地	2,123,768	2,123,768
その他	61,420	51,016
有形固定資産合計	4,432,740	4,315,759
無形固定資産	4,796	4,152
投資その他の資産		
投資有価証券	76,680	97,472
その他	7,416	7,532
貸倒引当金	△739	△739
投資その他の資産合計	83,358	104,265
固定資産合計	4,520,895	4,424,177
資産合計	5,952,122	5,804,436

（単位：千円）

	前事業年度 （令和８年３月31日）	当中間会計期間 （令和８年９月30日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	274,317	214,802
1年内返済予定の長期借入金	209,996	209,932
未払金	29,773	39,004
未払法人税等	54,148	16,610
未払消費税等	44,343	2,376
前受金	106,328	141,717
賞与引当金	2,000	2,000
その他	12,175	10,176
流動負債合計	733,083	636,620
固定負債		
長期借入金	227,509	122,591
繰延税金負債	265,843	275,985
退職給付引当金	8,134	8,247
その他	9,711	8,078
固定負債合計	511,198	414,902
負債合計	1,244,281	1,051,522
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,271,937	2,271,937
資本剰余金	2,137,621	2,137,621
利益剰余金	296,906	327,737
自己株式	△39,994	△39,994
株主資本合計	4,666,470	4,697,301
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	41,369	55,612
評価・換算差額等合計	41,369	55,612
純資産合計	4,707,840	4,752,913
負債純資産合計	5,952,122	5,804,436

（２）中間損益計算書

（単位：千円）

	前中間会計期間 （自 令和７年４月１日 至 令和７年９月30日）	当中間会計期間 （自 令和８年４月１日 至 令和８年９月30日）
売上高	1,586,849	1,541,017
売上原価	1,203,675	1,201,105
売上総利益	383,173	339,911
販売費及び一般管理費	300,135	298,689
営業利益	83,038	41,222
営業外収益		
受取利息及び配当金	2,050	2,943
その他	1,118	638
営業外収益合計	3,168	3,582
営業外費用		
支払利息	5,547	4,164
その他	500	795
営業外費用合計	6,047	4,960
経常利益	80,160	39,844
税引前中間純利益	80,160	39,844
法人税、住民税及び事業税	14,127	5,420
法人税等調整額	△1,671	3,592
法人税等合計	12,455	9,013
中間純利益	67,704	30,830

（３）中間キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前中間会計期間 （自 令和７年４月１日 至 令和７年９月30日）	当中間会計期間 （自 令和８年４月１日 至 令和８年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	80,160	39,844
減価償却費	119,887	119,254
退職給付引当金の増減額（△は減少）	332	113
受取利息及び受取配当金	△2,050	△2,943
貸倒引当金の増減額（△は減少）	－	△2,149
支払利息	5,547	4,164
売上債権の増減額（△は増加）	6,882	△83,406
棚卸資産の増減額（△は増加）	△2,413	△63
仕入債務の増減額（△は減少）	160,421	△59,515
未払又は未収消費税等の増減額	49,717	△41,966
前受金の増減額（△は減少）	27,574	35,389
その他	△26,211	△8,348
小計	419,846	372
利息及び配当金の受取額	2,050	2,943
利息の支払額	△5,549	△4,190
法人税等の支払額又は還付額（△は支払）	18,482	△39,940
営業活動によるキャッシュ・フロー	434,830	△40,814
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	－	△30,000
有形固定資産の取得による支出	－	△1,630
その他	△254	△413
投資活動によるキャッシュ・フロー	△254	△32,043
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	－	350,000
長期借入金の返済による支出	△104,998	△454,982
リース債務の返済による支出	△1,633	△1,633
財務活動によるキャッシュ・フロー	△106,631	△106,615
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	327,944	△179,473
現金及び現金同等物の期首残高	799,636	1,314,612
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,127,581	1,135,138

（４）中間財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

当社は劇場事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。